

花はな通信



若濱 五郎

恵み野在住／美しい恵み野花のまちづくり推進協議会会長

イギリス人は花好きが多いので、イギリス系の国はどこに行っても庭がきれいに手入れされ、そして、四季の花が美しい公園や広大な植物園が市民の憩いの場になっている。イギリスの町、カナダのバンクーバー、オーストラリアのシドニーなど、花と木の住宅街を歩くと、よそ者の私でもしっかりと落ち着けるのが不思議なくらいであった。

若いころ一家で滞在していたオーストラリアのメルボルンの住宅街も同様であった。どの家も木に囲まれた庭には、あまりけばけばしくない色の花が咲いている。芝生には放し飼いの大きな犬が寝そべり、猫がのんびりと歩いている。300万都市のただ中というのに、可愛い女の子が馬に乗って道路を歩き、庭のレモンの木やポトルブラシの木にはワライカワセミが来てけたたましく鳴く。夜には有袋類のポッサムが出没する。

庭は人工的に飾った庭園風では決してない。中に立つと、むしろ和やかな自然を感じて嬉しい。元来、自然派の私は、こんな庭がとても好きで落ち着ける。

そんな庭の前を通ると、しばしば、その家の人がニコニコと

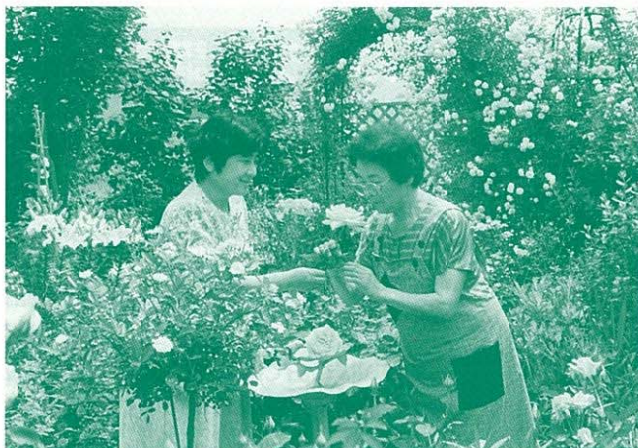
何を
目指すか……
花の
まちづくり
庭は、住む人の心の温かさがあつてこそ、
のんびりと落ち着いたものになり、
人との交流も生まれてくるものです。



声をかけてくれる。招かれるままに中に入るとすぐに友達となり、花や木や動物たちの話はずむ。庭は隅々までビシッと整理されたものではないが、そこに住む人の心が温かいので、のんびりとリラックスできて楽しい。ここの住宅街は、そんな家と庭が続いているように見えた。こんな街ができ、人との交流ができればどんなにいいだろうと思ったものだ。

以来、わが家ではそんなことを心がけながら庭いじりをしている。そのせいか、前を通る人によく声をかけられ、招き入れると「すぐ心が安らぐ庭ですねえ」と言ってくださる。ごく狭い庭であるが、こう言っていただけのが我々にとって最高の賞である。

花のまちづくりは、単なる花づくり、庭作りではない。かといって「街づくりをしよう」と肩に力をいれるのも私は好きでない。ただ、花と庭が縁となって人が自然に声をかけ合い、気軽にその庭に入って話せるような温かくて寛容な街になればと思う。公園などの公共の地を、市民の力で花と緑の心豊かな交流の場にできれば更に素晴らしい。



恵庭花の まちづくり 推進会議

恵庭花のまちづくり推進会議は、フラワーマスターや各団体の代表15名のメンバーで構成され、花のまち恵庭を目指し、「花のまちづくりプラン」を推進するため「花とくらし展」や「花の講習会」を開くなどの活動をしています。恵庭花とくらし展は、今年12回目を迎えることとなりますが、現在推進会議は、メンバー会議や企画部会を開き、新たな方向性を議論するとともに、プログラムづくりを進めています。今回は、その様子の一端をご紹介します。

メンバー会議のメモから(12月19日開催)

■花の情報発信をテーマにした、花とくらし展を目指して■

- ▶ 花とくらし展は、もっと魅力がだせれば、花に関心ある方だけに限らず、多くの人が見に来てくれるはずです。これまでの展開の仕方を見直し、その方向性を変えることで、新たな花とくらし展を開催していくことが求められています。
- ▶ 花とくらし展は、イベントを実施するか、または啓発的なプログラムを中心に展開するかという選択ではなく、方向性をしっかりかためて実施することが重要です。恵庭の花のまちづくりが、最終的に向う方向は、恵庭が花の拠点となって情報を発信していくことです。
- ▶ これからは、花が生活の中に、どのように無理なく取り入れられていくのがテーマになっていくと思います。恵庭が情報を発信していくには、模倣によらず、独自の、そして意味のあるプログラムづくりが大切です。



企画部会のメモから(1月19日・2月2日開催)

■具体的なプログラムの実施をめぐる■

- ▶ 市民のみなさんが、それを見て、新しい情報、たとえば新しい花について、また花の組み合わせや生活の中に花をうまく取り入れていく方法について勉強できるようなことが求められています。
- ▶ 花とくらし展は、市民参加がベースになり、市民が一緒になって参加できれば、全道のみならず全国から人が集まってくると思います。
- ▶ 恵庭は、市民が主体となった花のまちづくりが評価されています。こうした恵庭らしさを大事にし、自分たちが楽しみながら展開していくことです。
- ▶ 開催場所を変えてみることで、新しいものが生まれてくるかもしれません。
- ▶ 参加して本当に楽しめるもの、そして花への感謝の気持ちがひとつのプログラムに具体化するようなものもいいと思います。

楽しいガーデン講座

『ワンランクアップ の庭づくり』

花新聞「ガーデン塾」でおなじみの政村先生が、楽しく庭づくりのアドバイスをします。

講師 政村 悦啓 氏 (有)政村庭園代表取締役

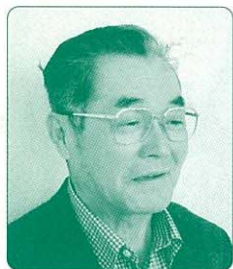
とき 3月17日(土) 午後1時30分～

会場 恵庭リサーチ・ビジネスパークセンタービル
視聴覚室(3階)
恵庭市恵み野北3丁目1番1(市立図書館斜め
向かい)

※参加は自由で無料となっています。

※参加者には花の種をプレゼントします。





兼子 達夫さん
花いっぱい文化協会役員

緑の芝生にかこまれた庭づくり

兼子さんは、花いっぱい文化協会でご活躍されています。現役のときは、芝生種子の研究開発に携わっておられたこともあり、芝生と庭づくりについて話をうかがいました。

芝生が美しい庭は、花もそれに映えて、目を引きましますね。花と芝生のバランスがとれていると、環境の美しさがかもしだされるのだと思います。

私は、昨年ニュージーランドのクライストチャーチで、多くの花に飾られた庭を見ましたが、やはり印象深かったのは、芝

生さらに樹木との取り合せでした。そこには、緑の芝生と樹木、そして花の美しさをトータルに組み合わせる環境美化の基準があると感じました。恵庭で同じ環境をつくりだすのは難しいことかもしれません。ただ私は、いま恵み野西会館の花壇を、役員の方と一緒に世話をさせてもらっていますが、芝生にも気を配るようにしています。

美しい芝生は、結局土づくりにつきます。そして、心をこめた適切な管理がなされれば、上手に育てることができます。花づくりをされている方は、このことを十分に理解されておりますから、あとは経験を重ねながらやってみることでないでしょうか。

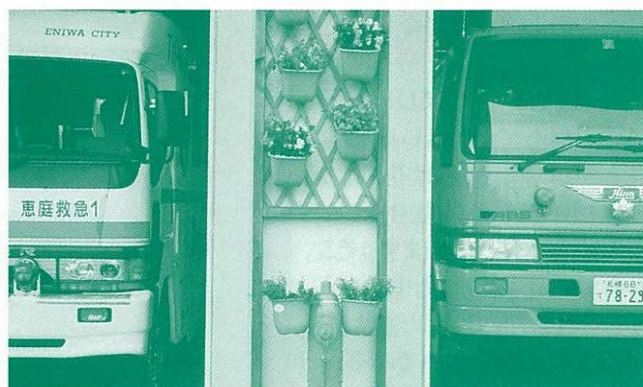


花のまちかど散歩



消防署(有明町)や消防署南出張所(戸磯)が、花で飾られていたの気づかれましたか。花のまち恵庭にふさわしい消防署ですね。

「消防署は、硬いイメージがありますが、玄関前や周辺に花を置くことで、もっと市民の方が親しみやすく、気軽に



相談にきていただける消防署になってもらえればという願いがありました。」と消防署の木村さんは言い、前山南出張所長は、「花をデザインしたおかげで、町内会や老人クラブの方々が、ここで足をとめてくれ、気軽に花の話しをするようになり、私たちもそうした会話の中から火災予防に理解を深めてもらったりもします。」と語ってくれました。

**花のガーデン
・コンテスト
7月末に実施**

ニュージーランドのクライスト・チャーチから学んだガーデン・コンテストは、「恵み野フラワーガーデニング・コンテスト」として花ひらき、既に多くのすばらしいガーデンが表彰されています。恵庭花のまちづくり推進会議は、今年から恵庭の花が美しい彩りをみせる季節に、恵庭全域を対象に、「花のガーデン・コンテスト」を実施し、個性的に彩り豊かにガーデニングされた庭を表彰します。エントリー方法、審査及び配点基準、各賞と賞品等については、後日恵庭市広報にてお知らせします。お楽しみに。



花のまち



花から広がっていくもの



千葉 待子さん

恵み野在住

千葉さんは、恵み野研究村通りに居を構えて8年。
ガーデニングと押し花に興味をもたれ、花を身近にしながら、
充実したひと時をすごすことに努力されています。
千葉さんの花のある暮らしをうかがいました。

庭先に花を植え、花の手入れをしていると、いろいろな方が立ち止まって声をかけてくださるようになりました。たいいていガーデニングに関心がある方なので、しぜんに花の話題になり、この花はどんなふうに育てているのとか、花の種はどこで見つけてくるのとたずねられ、つい私も夢中になって話こむことがあります。すると、いつの間にか仲のよい友達になったりします。

花は、自分流に楽しめればいいと思っています。高価な花もありますから、私は花によっては種から、失敗を繰り返しながら育てたりもしています。そこからずい分多くのことを学びます。また投げ捨てられた木片も、単調な花の庭においてみると、生き返ることもあるので、いろい



ろ工夫してみることも大切だなと思っています。

私はまた、自分の育てた花を使って押し花をし、それで表現することも楽しんでいます。

押し花は、いろいろな花を使いますので、盤尻の山へ野草を探しに行くこともあります。

玄関前の庭は、まだ雪が深く、ガーデニングはこれからの仕事ですが、今年も、木があって、宿根草で四季折々の花が咲き、そして一年草で思い思いの花が咲くようになればと考えています。そして、ささやかながら、花がとりもつ縁のようなものが生まれてくれればいいですね。



として保管しましょう。

フラワーマスターの花便り

桑山正人(中央在住)

パンジーを

咲かせてみてはいかがですか

外はまだ白二面の銀世界。厳しい寒さも残っていますが、ガーデニング好きの皆さんは、これからの庭の花作りにいろいろな想いをめぐらせているのではないのでしょうか。

今回は、パンジーについてふれます。パンジーといえば、三色スマイレに代表されるように、春先に咲く花です。北海道のような積雪地域では、夏蒔きして、秋に植え付け、雪の下で越冬させる方法が一般的でしたが、しかし、冬の時期に種蒔きし、ハウスの中で育苗し、早春から出荷する栽培も増えてきています。関西地方では、秋に植えたパンジーが翌春にピークを向え、関東地方では5月のゴールデン・ウィークの頃に花が真っ盛りとなります。これほど冬から秋にかけて、パンジーが花壇に使われるのは、その耐寒性、タフネス、多彩な色のバリエーションがあるためといえます。

これから北海道は、いつきに春がやってきます。パンジーやビオラを使った季節感のある花づくりにチャレンジしてみてもどうでしょう。

今年も、花を通じ、花に携わる皆様が幸せになれるように！

発行

恵庭・花のまちづくり推進会議

北海道恵庭市京町1番地

恵庭市花と緑の課内

TEL(0123)3331131 FAX(0123)333175

発行日：平成13年3月1日